

学校だより



せいび

令和6年9月30日
杉並区立済美小学校
校長 八代 史子

…済美小学校の大事なひとりになろう…

〒166-0013 杉並区堀ノ内 1-17-24 Tel 03-3313-2364 FAX 03-3313-8634

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/>

多様性を認める

副校長 吉原 勇

東京都は6月、11月、2月の3回「ふれあい月間」を設定しています。「ふれあい月間」とは、いじめや不登校などの実態調査を行い、都内全公立学校が、いじめや不登校等の問題に対する取り組みを見直すとともに、的確な指導の充実を図る月間のことです。本校でもアンケートを実施し、児童一人一人の気持ちを伝えられる機会を作っています。

いじめの定義は、「当該児童生徒と一定の人的関係のあるほかの児童生徒が行う心理的・物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」（平成25年「いじめ防止対策法」）です。つまり、「いじめをされた」と感じたら、それはいじめであるということです。

いじめは、絶対的にしている人が悪いのです。「いじめをされるほうにも原因がある」というのは、間違いです。どんな理由があろうとも、いじめなんてしなければよいのですから。では、いじめはなぜ起きるのでしょうか？なぜいじめをする人がいるのでしょうか？

我が国ではこれまで、「画一性が美」とされる文化が主流でした。まわりのみんなと同じようにすることがよいとされ、同じことができる周りの人から受け入れられる文化が続いてきたように思います。「同じ地域に住んでいる人は、同じしきたりを守るべきだ」とする風習は、今でも全国各地に残されていると聞きます。これは逆に言うと、「和を乱す言動について、寛容でない文化があった」とも言えます。江戸時代には、集団の意に沿わないことをする人がいると集団で申し合わせて絶交する…（村八分）といったこともあったようです。

現代は、「多様性を認める」文化に変化してきています。周りの人と違って、それは個性であり、その人の持ち味として尊重することが「多様性を認める」ことです。「多様性を認める」と、「多様性を受け入れる」ことは違います。人の心の中には、その人それぞれの価値観があり、受け入れがたいこともあります。しかし、受け入れがたいからと言って、相手を攻撃したり、無視したりすることはどうでしょうか？「自分の考えとは違うけれどあの人はそうなんだ」と理解できることが「多様性を認める」ことです。

いじめの発端には、「多様性を認める」ことの希薄さがあるように思えてなりません。周りの人の価値観を理解して尊重し、認めることの大切さを伝え、いじめの防止に努めていきたいと思えます。

★本校のいじめへの取り組みは、下記のURLにてホームページ公開しています。ぜひご覧ください。

いじめ防止対策基本方針・・・・・・・・・・ <https://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/img/file554.pdf>

いじめ防止対策基本方針全体計画・・・・・・・・・・ <https://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/img/file551.pdf>

いじめ対応フローチャート図・・・・・・・・・・ https://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/img/29_taiouzu.pdf

いじめアンケート対応フローチャート図・・・・ https://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/img/29_anke-tozu.pdf